S.G. Report

No.9-③

『ドイツ現地環境スタディ③』

●日　時：　平成２７年１０月２５日（日）～３１日（土）
●参加者：　２年SGコース生徒（３３名）および職員（川上校長、坂西、鶴濵）
●訪問先：　ハイデルベルク・フライブルク・フランクフルト（ドイツ）
●目　的：　⑴ 環境先進国ドイツで、大学訪問、環境関連施設の視察、姉妹校との交流等を行う。
⑵ 事前の準備や事後の振り返り等をとおして、自国の文化や歴史について見つめなおし、英語発信力を向上させる。
⑶ 環境学習から得た知識や情報を利用し、それぞれの課題研究の更なる深化をはかる。

【研修内容（５日目～７日目）】

１０月２９日（木）

１．起床（７：００～）

２．ホテル出発（８：３０～）

フライブルクを後にし、ドイツで最初に降り立ったフランクフルトへ。約３時間のバス移動となった。途中ＳＡに立ち寄り順調にフランクフルトに到着した。

３．フランクフルト視察（１１：３０～）

フランクフルトはそれまで訪れた町とは全く雰囲気の異なる都市であった。都会が持つ特有のざわざわ感が充満していた。多種多様な人々の姿が見られ、まさにミニ・ニューヨークといった様相を呈していた。

近代的建造物と歴史的建物が共存する町並みは不思議な雰囲気を持っており、ヨーロッパの金融の中心地であるこのフランクフルトの懐の深さを感じた。

４．①アンネ・フランク教育センター視察
②フィールド・ワーク「ゴミの行方プログラム」研修

ここでＡ班・Ｂ班に分かれそれぞれが前半・後半交代で上記２つの研修を行った。

アンネ・フランク教育センターは、ドイツの歴史に暗い影を落とすユダヤ人虐待について否応なく考えさせられる場所であった。日本人ハーフのユダヤ人の方がガイドということもあり、率直な質問をぶつける生徒の姿が見られた。

「ゴミの行方プログラムは」、フランクフルト市内を歩き回り身をもってドイツのゴミ事情を学習することのできる内容であった。今後の研究にも活かせるような貴重な資料もいただき、有益な研修となった。

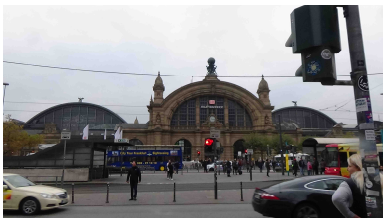
５．夕食後ホテルへ

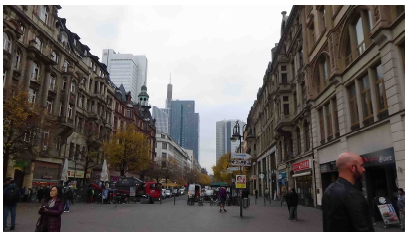
夕食は地元で人気のあるところのようで、ほぼ満席状態の賑やかな中で食べた。やや疲れが見える生徒もちらほら。

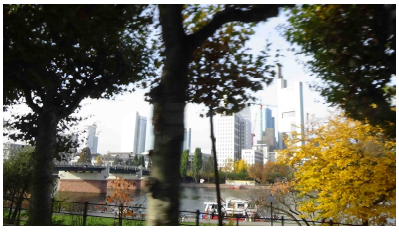
夕食後フランクフルトのホテルにチェックイン。すっかり暗くなった市街地には昼間以上に多種多様な人々が闊歩していた。

研修も５日目終了となった。

１０月３０日（金）～ 31 日（土）







1．起床（７：００～）

空港に行く日であるので、忘れ物がないかを厳重にチェックし荷物をバスに乗せて、まずは徒歩で出発。

2．フランクフルト視察（９：００～）

朝のフランクフルト市内を視察した。よく映像で見るフランクフルト駅構内も案内していただいた。近代的な建物と歴史ある建物の共存の様子は環境とツーリズムの在り方を考えさせるものでもあった。

目抜き通りをしばらく歩き、行動可能範囲を指定し、自主行動研修へと移った。

3．グループ別自主研修（１０：００～１２：３０）

これまで学んだこと、経験したこと、感じたことを今度は自分たち自身の目で見、耳で聞き、体で感じるということでグループごとの自主研修開始。

フランクマルクトハレといった有名な市場にも生徒の姿が見られた。研究のための写真を撮っている生徒も多くみられた。もちろん買い物の実践を行っている生徒も多かった。

無事全員集合し、全員でレストランへ。

（昼食）

4．フランクフルト空港へ向けて移動（１３：３０～）

5．フランクフルト空港到着（１６：００～）

6．フランクフルト発着（１８：００～）

ルフトハンザ航空７１６便にて羽田へ

（国際日付変更線通過）

7．羽田空港着（１３：０５～）

国内線ターミナルへ移動

8．羽田空港発（１５：１５～）

全日空６４５便にて空路、熊本へ向け出発

9．熊本空港着（１６：５５～）

無事帰熊。保護者の出迎え多数。疲れもあるが充実感と安堵の表情があふれていた。解散。

生徒の感想（抜粋・おおむね原文のまま）

車を全く使わないでいいような社会というのは今の日本では考えられないことだと思います。だから Co2 排出を９５％や１００％減少させるというドイツの目標は驚きでした。最後のフランクフルトでは、ごみの行方について実際にごみ箱や環境にやさしい製品を見て、ドイツの環境意識の高さを感じました。これらの経験から、ドイツの人々はドイツを愛していて誇りがあるのだと私は思いました。だからこそ古い街道はそのままに残そうと努力し、それがいつまでも続くように環境のことも考えて行動できているのだと思います。日本や自分の暮らしを考えてみて、自分が環境のことを考えて行動したり街を自慢できるほど好きだからずっと残していきたいという気持ちはもちろんあるけど、ドイツほどかと言うとまだまだだと思わされました。環境をよくしていくためには、まず身のまわりの環境を好きになることが重要でそれでこそ自主的、主体的に行動していけると思いました。この研修で学んだことをもう一度整理してまわりに広めていきたいです。（女子）

今回、ドイツへ研修に行かせていただいて、気づいたことは、グローバリゼーションというのは意外と身近なところにも表れているということです。私は、２日目のブンゼンギムナジウムでの研修で、強く感じることがありました。６年生の子供たちの発表は極端な所もありましたが、簡潔にまとめられていて感心しました。更にその後の１１年生の発表は、私たちの知識をはるかに超えており、うなずかされるばかりでした。年上ではありますが、自分たちが取り組むべき行動をしっかり意識しているドイツの学生を見て、日本は立ち遅れていると感じ、また、私たちが先駆者でなければならないとも思いました。（男子）

今回のドイツ研修を経て自分は色々なことを学びました。まず第一に言葉の大切さを学びました。身振り手振りでもだいたいのニュアンスがわかるけど、きちんとはわからないので、やはり円滑なコミュニケーションを進めるには相手の言葉をしっかりと理解することが一番だと思いました。次に積極性が大事だと思いました。自分から話しかけずに、相手から話しかけてくれることを待つ受身の姿勢では今回のように初対面の相手とは特に会話がなかなかできないということを今回の研修で改めて理解するこことができました。（男子）

この７日間で様々な場面から本当に多くのことを学んだ。まだまだ書ききれないほど充実した濃いドイツ研修であった。私の研究テーマである環境教育についての知識を深め、さらに調べていきたい新しい情報も知ることができたし、雄大な自然や歴史的な建物、現地の人々との関わりの中で自分の中の当たり前が覆され、今までとらわれていた考え方に気づくこともできた。今後はこの研修で味わった経験や新鮮な気づきを心にとめながら、日々周囲の様々なものから自分自身の学びを深めていきたと思う。（女子）

今回のドイツ研修で出会ったことは、全てがはじめてのことで、今までの自分にはなかったものをたくさん得られたと思う。私はこの研修を通して“実体験の大切さ”を学んだ。“自然を大切に”とか、“異文化の人とも偏見なく交流”とか、今までの生活の中で何度も学んだつもりのことでも、それを実行するのはとても難しいし、それを本当に理解することすら難しいことなんだと分かったのは、エコロジカルガーデンで自然を肌で感じたり、様々な外国人と接する中で良くも悪くも自分とは全く違う感覚があることに気づいたりするという実体験があったからだと思う。だからこれからは読んだり聞いたりしただけで分かった気にならないで、体験、行動することではじめて得られるものは本当にたくさんあるはずだから積極的に動いていこうと思う。（女子）

初めて海外へ行ったが、日本と違う点が沢山あった。ドイツが環境先進国と言われているのは知っていたが、今回は実際、現地へ行ったことでその理由の一部を実感できた気がする。特にそれを感じたのは、ドイツの人々の交通手段だ。とにかく自転車の量が多かった。日本で一日に目にする量は圧倒的に車の方が多いが、ドイツでは都市にもよると思うが、自転車が車と同じくらいか、もしくは車より多かったかもしれない。いたるところに駐輪場が設けられていて、自転車用の道も整備されており、自転車を積極的に利用しやすいような環境も整えられているんだなと感じた。全体を通して行政が環境の改善に積極的に努め、国民ひとりひとりもそれについていってるようだった。（女子）